

第 35 回合志市地域公共交通協議会

〔日時〕平成 27 年 11 月 16 日（月）午後 13 時 30 分～

〔場所〕合志市役所 合志庁舎 2 階大会議室

〔出席者〕藤井勝公委員、寺本秀信委員、森邦弘委員、藤園直美委員、
西郷節夫委員、塚本秀典委員、原田満恵委員、小田原勝也委員、
野田徹志委員、小森田政憲委員、新居唯一委員、片岡正和委員、
松野完治委員、牛島光英委員、富加美尚悟委員、輪内良一委員、
溝上章志委員、原啓二委員、今村豊委員、田中隆臣委員

〔代理出席〕県北広域本部 福田恭久氏

〔欠席者〕緒方博詞委員、山野一平委員、富田一則委員、重光重信委員、
島川浩一委員、金森大次郎委員、林省吾委員

〔事務局〕濱田政策部長、澤田企画課長、牧野課長補佐、吉田主査

〔議題〕

協報告及び協議事項

- (1) 合志市地域公共交通協議会設置要綱の改正について
- (2) 平成 27 年度コミュニティバス運行実績中間報告について
- (3) 平成 27 年度事業計画中間評価・平成 28 年度事業計画(案)について
- (4) 合志市地域公共交通網形成計画(案)について

〔会議の公開・非公開の別〕 公開

報告事項（1）合志市地域公共交通協議会設置要綱の改正について
～事務局から資料を説明～

藤井勝公会長：何か意見、質問はないか。

各委員：特になし

報告事項（2）平成 27 年度コミュニティバス運行実績中間報告について
～事務局から資料を説明～

藤井勝公会長：何か意見、質問はないか。

森邦弘委員：乗合いタクシーの利用者の減少の原因はどういったものになるのか。

事務局：乗り合いタクシーの路線は人口減少地域であり、路線の利用者は概ね 70 歳以上が 80%の固定客という状況で、自然人口減が考えられ、単純に週 2～3 回利用されていた方が、利用されなくなった場合、一年 57 週×2～3 回で約 100～150 名の利用者数が減少することとなる。いかに新規利用者を増やすか

を対策していくかが問題になると考えている。

藤井勝公会長：他には質問等はないか。

各委員：特になし

協議事項（3）平成 27 年度事業計画中間評価・平成 28 年度事業計画(案)について

～事務局から資料を説明～

藤井勝公会長：何か意見、質問はないか。

溝上章志委員：運賃収入はどこにあがっているのか。

事務局：運賃収入は委託契約上で、運行経費から運賃収入を差引いた額を歳出しているため、事業計画（案）では委託料の額を計上してある。内訳の数値については、中間報告時と年度末後の協議会にて、利用実績として報告をさせていただいている。

溝上章志委員：平成 28 年度予算の積算根拠が、この資料では分からない。

事務局：積算根拠については、キロあたりの運行単価があり、年間のレターバスと循環バスの総走行距離を掛け、年間の運賃見込み額を差引いたものになる。詳細数値については、次回の協議会にて説明することとする。

西郷節夫委員：10 月ダイヤ改正後に光の森へ行くため、循環バス須屋線から、レターバスに乗り継ぎ利用をした。しかし、レターバスが 5 分～10 分遅れた。接続はきちんと出来ているのか、ダイヤの運行データは取られたか。

事務局：現在データについては取得しているところで、取得次第分析したいと考えている。

西郷節夫委員：老人会で循環バス利用を呼びかけている。今回初めて循環バス須屋線を利用したが、同じような場所を周っているように思える。もっと分かりやすい路線に編成してみてはどうか。

溝上章志委員：循環バスの利用が伸び悩んでいるようだが、路線編成や利用者が少ないなら乗合いタクシーに変更するなど検討はされているか。

事務局：大幅な路線編成は現在のところ検討していない。利用促進策として、今回ダイヤ改正を行っており、みずき台バス停での乗り継ぎにより光の森への利用を付加し、利用者増をねらいとしている。今後利用状況の推移を見て、ねらい通りでなければ再検討していく予定である。

藤井勝公会長：平成 27 年度事業計画中間評価・平成 28 年度事業計画(案)について承認をいただきたいが如何か。

各委員：承認

協議事項（４）合志市地域公共交通網形成計画(案)について
～事務局から資料（前段：目次 1～4 項目）を説明

藤井勝公会長：何か意見、質問はないか。

原田満恵委員：合志市の概要で合志市の 9 割が市街化調整区域になっているため、市街化調整区域に個人で家を建てる場合、かなり手続きが大変。結局、家を建てることを断念するため、人口が流出していく。計画自体が拠点に人を集めるなど、記載してあるが、まずは市街化調整区域の見直しを検討する方が先ではないか。

事務局：熊本都市計画区域のため、合志市独自で線引きを出来るわけではないため、今後も県・国に働きかけを行っていく。

松野完治委員：まず、用語の使い方が間違っている部分がある。1-1 で「計画の範囲」と記載してあるが正しくは「計画の区域」と記載しなければならない。2-1（2）で記載部分は交通と何の関係しているか分からない。また、人口の何%がどの様に市域に張り付いているのか、市街化区域の人口数などのデータを記載していただきたい。人口動向もグラフ化したり、見せ方の工夫がかなり必要ではないか。

～事務局から資料（前段：目次 5～9 項目）を説明

松野完治委員：事業の 8-4 の個別事業の IC カードの導入についてとは、どういった事業を予定しているのか

事務局：レターバスにすでに導入されているので、IC カードの導入については削除を検討する。

松野完治委員：今回合志市は形成計画策定で、国の補助申請において、公共交通ネットワークで繋がった階層型多極集中拠点による都市構造を目指し、コミュニティバスを含めて再編を見直すこととなっている。乗り継ぎの現状であるとか、合志市の将来像に向かっての方向性も議論していくようお願いしたい。また、乗降調査や事業者ヒアリングや市民ヒアリングのデータを含め次回の協議会で示していただきたい。

溝上章志委員：項目 7-1 の目標と指標の整合性が取れていない部分がある。目標 1 の効率的で快適な公共交通を目標とするならば、乗車客数を指標となるのか。調整を図るべき。また、目標数値については、具体的に標記するのか。例えば利用者数が 90,000 人とあるが、もし 1 人でも足りない場合は計画としては駄目になるのではないか。国にとの調整をしていただいた方がい

い。

松野完治委員：形成計画の書き方については調整できるが、合志市が強い決意で目標数値を掲げるのであればそのままでもいいと思う。また地域によって書き方もあるのと、県内他市町も形成計画を策定している。省のチェックも入る。数値の記述については工夫が必要である。

田中隆臣委員：熊本市においても、公共交通網形成計画を策定中である。目指す公共交通の将来像として、誰もが安心して移動できる持続可能な公共交通を目標として持っている。まだ、具体的な施策等まではまとまっていない状況。

熊本市は市電が有名であるが、市民の本当の生活を支えているのはバスと考える。利用者ピークから 1/3 の 3,000 万人と利用者は減っているが、市電利用者 1,000 万人と比べ 3 倍の利用者はいる。3 割減少となっている中、公共交通の課題として、乗り継ぎが重要と考える。事業者も長い路線を運行しても、経費増となっていくため、将来的に持続できないため、乗り継ぎを考えて、適正な便数にしていく運行していくことが持続可能な公共交通と考える。今回本市計画で、合志市の御代志地区については、市域外ではあるが、合志菊池方面の幹線の軸の乗換拠点の候補地として大きく位置付けている。よって、御代志のターミナル整備等について大きく期待している。今後事務的にもすり合わせ、互いの計画に反映していくところである。

塚本秀典委員：5 年間の計画で、まず御代志周辺の開発について、現時点で詳細については、分からないと思うが、開発規模にかかわらず、やはり駅を中心とした、コミュニティバスの路線の見直しを考えてほしい。現在辻久保を中心に周っているため、その部分も含め、駅を中心としたコミュニティバスの路線整理が重要。

また、パーソントリップの結果から、合志市から菊陽町への人口流動が大きいことが分かっているが、その大半は自動車であり、ほとんど公共交通が使われていないと考えられる。是非、合志市、菊陽町間の路線バス、コミュニティバス路線を考えてほしい。

計画の中身ではないが、翔陽高校線が廃止になるが代替案を教えてください。

事務局：今年 10 月からレターバスの始発時間を 6：50 に早めており、光の森駅で乗り継いでいただき、肥後大津駅から産交バスに乗り継ぎ、登校していただくよう代替策として考えている。

松野完治委員：今後の計画策定の注意点ですが、合志市はバスだけではなく、鉄道も走っている。面的に捉えていく必要性があるので、バスと鉄道との連携、また少し離れているが、JR との連携もしっかり、考えていくようお願いしたい。熊本電鉄が今回再春荘病院～武蔵塚駅を試行運行されるが、そういった部分の研究も今後進めていっていただきたい。

藤井勝公会長：この計画（案）は、本日の様々な意見を踏まえた上で修正していくこととする。なお、本日計画案について、承認をいただきたいが如何か。

各委員：承認

その他 熊本電鉄バスの「新路線」のお知らせについて
～熊本電鉄小田原委員から資料を説明

その他 熊本都市圏協議会（公共交通作業部会）講演会のお知らせについて
～事務局から資料を説明